

令和 7 年

目 黒 区 教 育 委 員 会

第 1 回 定 例 会 会 議 錄

(令和 7 年 1 月 7 日開催)

第1回目黒区教育委員会定例会会議録

開催年月日 令和7年1月7日

開催場所 教育委員会室

出席委員	教育委員会教育長	関根義孝
	教育委員会教育長職務代行者	片山覚
	教育委員会委員	若井田正文
	教育委員会委員	松村眞理子
	教育委員会委員	高橋智佳子

出席職員	教育次長	樋本達司
	教育政策課長	高橋直人
	学校統合推進課長	西原昌典
	学校運営課長	関真徳
	学校I C T課長	藤原康宏
	学校施設計画課長	岡英雄
	教育指導課長	寺尾千英
	教育支援課長	末木顕子
	統括指導主事	鈴木将大
	統括指導主事	佐藤泰之
	生涯学習課長	斎藤洋介
	八雲中央図書館長	坂本祐樹

書記	小見哲一
	松園拓人

(議事日程)

- | | | |
|-------|------|-----------------------------------|
| 日程第 1 | 報告事項 | 令和 7 年度目黒区一般会計当初予算原案について |
| 日程第 2 | 報告事項 | 令和 6 年度小・中学校卒業式祝辞について（案） |
| 日程第 3 | 報告事項 | 令和 6 年度いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議の実施結果について |
| 日程第 4 | 報告事項 | 令和 6 年度目黒区立学校授業スペシャリスト表彰について |
| 日程第 5 | 報告事項 | 令和 6 年度学級閉鎖等の状況（12月27日現在） |

(午前9時30分開会)

○教育長 令和7年第1回目黒区教育委員会定例会を開会します。本日の欠席委員、欠席職員はいません。署名委員は片山委員です。

議題に入りますが、日程第1は区政執行情報に関する案件ですので、目黒区教育委員会会議規則第11条第1項ただし書の規定に基づき、会議を非公開にすることについて発議します。

それでは、同条第2項の規定に基づき、討論を行うことなしに、直ちに可否を諮ります。非公開とすることに賛成の委員の挙手を願います。

(全員挙手)

○教育長 それでは、日程第1は非公開により審議することとします。

(午前9時31分から午前9時42分まで 非公開会議)

○教育長 ここからは会議を公開とします。
次に日程第2を議題とします。

(日程第2 令和6年度小・中学校卒業式祝辞について(案)(報告事項))

○統括指導主事 (資料により説明)

○教育長 本日は卒業式祝辞の主題と題材に関する協議の2回目です。ただいま統括指導主事から説明があったとおり、前回、委員の皆様からご意見をいただき、題材をそれぞれ2つに絞りました。本日は、小学校、中学校ともに題材を1つに決定したいと思います。

それでは、前回と同様に、委員の皆様から順番にご意見を伺う形でよろしいでしょうか。

(各委員同意)

○教育長 それでは、そのような形で進めていきます。

○委員 まず小学校ですが、私は北里柴三郎の題材を推薦したいと思います。オリンピック・パラリンピックの題材も良いですが、

既に行われた大会を振り返るよりも、現在も重要な感染症対策を取り扱った方が良いと思いました。子どもたちもここ数年で感染症対策の大切さを実感している点からも北里柴三郎の題材の方が良いと思いました。ただ、主題に迫るエピソードの中で2つ気になる点がありました。まず1つ目は、留学中に破傷風のワクチンの開発や治療を確立したとありますが、ワクチンではなくて血清療法であるため、正確に表現した方が良いと思います。次に2つ目ですが、国の方針により研究が続けられなくなったという表現がありますが、これは現代の感覚とは異なり、東京大学医学部の前身である帝国大学医科大学の重鎮や、陸軍の医学関係者である森林太郎らと意見が異なったことが理由だったと思いますので、そのような点を踏まえて文章化していただきたいと思います。

続いて中学校です。生徒になじみ深いのはQRコードかもしれません、私はピクトグラムを推したいと思います。ピクトグラムはデザインが優れており、緊急時にも瞬時に把握できる非常口のデザインなど、これからも様々な公共の場で役に立つものだと思います。そのようなものが日本で開発されたことは、すばらしいことであるため、私はピクトグラムの題材が良いと思いました。

○委員

今回提示されている4つの題材については、主題との関連性という意味ではどれも適したものだと思いました。

その中で、まず小学校については、子どもたちにとって分かりやすいという点で、オリンピック・パラリンピックの題材が良いと思いました。北里柴三郎の題材も良いですが児童によつては難しく感じるので、むしろ中学校の題材として適しているのではないかと思いました。

中学校についてはどちらも良い題材だと思いましたが、QRコードがより良いと思いました。教科書にもQRコードが掲載されていること、日本人のチームが苦労して開発したというエピソードを新聞の連載で読んだことがあることなどから、生徒にとって身近で分かりやすい題材だと思いました。一方で、ピクトグラムについては、そもそもピクトグラムという言葉が、生徒が聞いてすぐにイメージできるものなのかが気になりました。もしピクトグラムを題材にするのであれば、実物を見せながら話をするのが理想的ですが、卒業式では難しいため、より

分かりやすいQRコードが良いと思いました。

○委員

小学校はオリンピック・パラリンピックの題材が良いと思いました。北里柴三郎は千円札に肖像画が使われているので認知度は高いと思いますが、どの時代に何をした人なのかについては、すぐにイメージできない児童も多いのではないかと思いました。

中学校は私もQRコードを推したいと思います。QRコードが世界中に広がった理由として、開発した日本の企業が取得した特許を自由に使えるようにしたことが挙げられると思います。そのため、「主題に迫るエピソード」では国際規格に合った形へと見直すことで研究が進み、様々な用途へ普及していったと書かれていますが、特許についても触れた方が良いのではないかと思いました。

○委員

まず小学校ですが、オリンピック・パラリンピックの題材が良いと思いました。昨年行われたため、子どもたちの記憶も新しいと思います。また、「卒業生への期待」に書かれている「新たな友達や先生と出会う中学校生活でも互いを認め合い、尊重する気持ちを忘れず、共生社会をつくり上げていってほしい」という内容も非常に良いと思いました。

次に中学校ですが、QRコードも良いとは思いましたが、ピクトグラムの方が良い題材だと思いました。ピクトグラムはほとんどの生徒が知っていると思います。東京オリンピックの際に日本人が開発し、それ以来発展させてきたことはすばらしいことだと思います。さらに誰もが言葉や文字に頼らずに、見るだけで理解できる分かりやすい社会をつくっていくことは、人類にとっての1つの夢なのではないかと思います。そのため、中学校はピクトグラムの題材が良いと思いました。

○教育長

先ほどピクトグラムについて、中学生が聞いてすぐにイメージできるものなのかというご意見がありましたが、そのあたりはいかがでしょうか。

○統括指導主事

ピクトグラムについては、小学校の時からユニバーサルデザインについて学ぶ機会などで触っています。また、福祉や特別支援に関わる学習でも触れているため、児童・生徒はイメージできると思います。

○教育長

その他ご意見やご質問等はありますか。

○委員

ピクトグラムは小さな子どもから大人まで、世界中の人が一

目見れば理解できるという点で、幅広い年齢の児童がいる小学校の題材としても適していると思いました。また、小学校から中学校へと環境が大きく変わり、様々な人と出会い、コミュニケーションの幅が広がっていく時期であるという意味でも小学校の題材として良いのではないかと思いました。

○教育長

各委員から順番にご意見をいただきましたが、毎年この題材の決定については意見が分かれるところです。今年も様々なご意見がありましたが、小学校については、多数決ということではありませんが、オリンピック・パラリンピックの題材ということではよろしいでしょうか。中学校については、ピクトグラムが1964年の東京オリンピックを契機とし、そこから世界中へ広まったというところで、オリンピック・パラリンピックとの関連性があります。また、QRコードと2次元コードという呼び方がありますが、この両者の使い分けが意外と難しいと感じています。このあたりいかがでしょうか。QRコードと2次元コードのそれぞれの言葉の意味合いも含めて説明をお願いします。

○統括指導主事 まず情報を線などの図形で表現したものをコードと総称しています。これまで線の太さや本数など、1次元にしか情報を持っておらず、これをバーコードと呼んでいました。それを縦と横に情報を持たせたものが2次元コードになります。2次元コードにはいくつか種類がありますが、その中でクイックレスポンスコードの略であるQRコードは、瞬時に読みとれるという特徴を持っており、日本で開発されたものになります。また、教科書の記載ですが、「QRコード」が数社あり、それ以外は、「コード」のみでした。バーコード、2次元コード、QRコードは全てコードであることから、そのような記載になっているものと思われます。このことから、文章にするときには、QRコード、コードという言葉の説明を少し加えながら、必要に応じて分かりやすく解説する必要があると考えています。

○教育長

分かりました。それでは中学校については、先ほど私が述べたような理由から、ピクトグラムのほうを取り上げるということでいいかがでしょうか。

○委員

題材をピクトグラムとすることに異存はありませんが、気になった点について質問します。ピクトグラムの例としてオリンピック・パラリンピックの競技があると思いますが、それ以外

にもトイレ表示のように分かりやすく絵で表示することと、ピクトグラムとの間には何か違いはあるのでしょうか。ピクトグラムの定義が分かれば教えてください。

○統括指導主事 情報を絵や図で表現して伝えるものがピクトグラムです。現在日常的に使われているトイレなどの表示も東京オリンピックの際に開発されたものであり、それらを全て含めてピクトグラムと呼んでいます。1964年の東京オリンピック以前には、場所やルートを案内する表示がほとんどなく、日本語で手書きの紙を貼るなどして対応していたようです。東京オリンピックの開催に向けて空港などの交通網を整備していくときに、不特定多数の人に情報を分かりやすく伝える目的でピクトグラムが開発されたそうです。このことから、ピクトグラムは競技だけでなく、場所や案内表示も含めたものであると解釈しています。

○教育長 ピクトグラムとQRコードは似たところもある題材だと思います。ただ、その中でピクトグラムについては、言語を越えて世界中の人たちが共通の認識を持つことができる、世界につながるという非常に大きな視点の話もできるのではないかと思います。そういったことからも、題材として取り上げてみたら面白いと思ったのですが、いかがでしょうか。

(各委員同意)

○教育長 それでは、小学校についてはオリンピック・パラリンピック、中学校についてはピクトグラムをそれぞれ題材にしたいと思います。

それでは、この題材について、次週、1月14日の本委員会において、事務局からそれぞれの題材についての具体的な文案が示される予定ですので、それについてご意見をいただくこととします。以上で、この報告を受けました。

次に、日程第3を議題とします。

(日程第3 令和6年度いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議の実施結果について（報告事項）)

○教育指導課長 (資料により説明)

○教育長 この件についてご質問等はありますか。

特にないようですので、この報告を受けました。
次に、日程第4を議題とします。

(日程第4 令和6年度目黒区立学校授業スペシャリスト表彰について
(報告事項))

- 統括指導主事 (資料により説明)
- 教育長 目黒区立学校授業スペシャリスト選考委員会の構成員及び授業観察を誰が行ったのかについて説明してください。
- 統括指導主事 まず、10月に行った授業観察についてですが、中学校の元校長である統合新校推進員、統括指導主事及び担当の指導主事の計3名が授業参観を行いました。
- また、11月27日に実施した選考委員会についてですが、教育次長を委員長とし、小・中学校の校長会長、教育指導課長、教育支援課長、教育政策課長、統括指導主事2名が委員として参加しており、教育指導課指導主事が事務局となっています。
- 委員 これまでに認定された教員の一覧表についてですが、年度によって5人が認定された年もあれば、今年のように1人ということもあります。何か理由があるのでしょうか。年度によって認定の基準が厳しくなることや、スペシャリストが不足しているため逆に基準を少し緩めるなど、事情によって左右されるようなものなのでしょうか。
- 統括指導主事 授業スペシャリスト表彰については、所属している学校の校長や教育会の教科の担当校長から推薦された教員の中から選考を行うため、年度によって人数に違いが出ています。
- また、認定の基準については、学習用情報端末の活用や主体的・対話的で深い学びを通じた授業改善など、時代に応じて授業の視点は変わってきていますが、年度によって基準が厳しくなったり緩くなったりすることはありません。
- 委員 子どもたちや保護者の方がすごいと思う教員も推薦される仕組みを導入してはどうかと思いました。教える側だけでなく、教わる側の意見も取り入れることが必要ではないかと思います。大学ではベストレクチャー賞というものがあるので、そのような制度を参考にしてはどうかと思います。
- 統括指導主事 教わる側の児童・生徒や保護者からの声も大事だと認識しています。校長が推薦する際には、例えば、PTAや地域の諸活

動について理解と協力を示し、保護者や地域の方々との円滑な人間関係を築き信頼を得ているかや、常に児童・生徒にとって分かりやすい授業を行っているかということも指標になっています。子どもや保護者の声の反映のあり方については、今後検討いたします。

○委員

昨年も述べたのですが、目黒区全体で今年の受賞者が1人ということに寂しさを感じています。これまでの授業スペシャリスト表彰の伝統の中で、一定の基準を満たさなければ受賞に至らないこともあります。何か別の観点からもっと多くの教員を表彰してほしいと思います。やはり教員も、褒められれば嬉しいですし、特にこれから伸びていく若い方にとっては動機づけにもなると思います。そのため、少なくとも教科ごとに1人程度表彰することに加え、学校経営や地域連携など、様々な視点で教員を表彰できる制度を、ぜひご検討いただきたいと思いました。

○統括指導主事 この取組自体が教員の励みになるように、指導主事による学校訪問の際などに授業スペシャリストに適している教員を把握した場合には、校長に推薦するよう引き続き働きかけをしていきます。より若手の教員を応援するような取組も今後検討していきます。

○教育長

その他ご質問等はありますか。

特になくようですので、この報告を受けました。

次に、日程第5を議題といたします。

(日程第5 令和6年度学級閉鎖等の状況(1月27日現在)(報告事項))

○学校運営課長 (資料により説明)

○教育長 この件についてご質問等はありますか。

特になくようですので、この報告を受けました。

○教育長 その他なにかありますか。

特になくようですので、以上で本日の定例会を閉会します。

(午前10時29分閉会)